



大日本國
大清國
修好條規



474
A. 677

修好條規

大日本國

大清國ハ古来友誼敦厚ナルヲ以テ今般一同
舊好ヲ修メ益邦交ヲ固クセント欲シ

大日本國

欽差全權大臣從二位 大藏 卿伊達

大清國

欽差全權大臣

辦理通商事務 太子太保協辦大學士
兵部尚書直隸總督部堂一等肅毅伯 李

大正十一年四月
限侯爵郵寄贈

大正

各奉シタル

上諭ノ旨ニ遵ヒ公同會議シ修好條規ヲ定メ以テ
雙方信守シ久遠替ラサルヲ期ス其議定セシ
各條左ノ如シ

第一條

此後

大日本國ト

大清國ハ 弥和誼ヲ敦クシ天地ト共ニ窮マリ無

以下新加

ルベシ又西國ニ属シタル邦土モ各禮ヲ以テ相
待チ聊侵越スルヲナク永久安全ヲ得セシム
ベシ

第二條

兩國好ミテ通セシ上ハ必ス相関切ス若シ他
國ヨリ不公及ヒ輕藐スルヲ有ル時其知ラセ
テ爲サハ何レモ互ニ相助ケ或ハ中ニ入リ程克ク
取扱ヒ友誼ヲ敦クスベシ

余条新加
可議

不審
無害
新加

第三條

兩國ノ政事禁令各共ナレハ其政事ハ已國自
主ノ權ニ任スベシ彼此ニ於テ何レモ代謀干預
禁シタルヲ取り行ハント請ヒ願フヲ得ス其
禁令ハ互相助ケ各其商民ニ諭シ土人ヲ誘惑
シ聊違犯有ルヲ許サス

第四條

兩國兼權大臣ヲ差出シ其眷屬隨員ヲ召

具シテ京師ニ在留シ或ハ長ク居留シ或ハ時
時往來シ内地各處ヲ通行スルヲ得ベシ其入
費ハ何レモ自分ヨリ拂フベシ其地面家宅ヲ
賃借ノ大臣等ノ公館ト為シ並ニ行李ノ往來
及ヒ飛脚ヲ仕立書狀ヲ送ル等ノハ何レモ不
都合ナキ様世話イタスベシ

第五條

兩國ノ官位何レモ定品有リトイハレ職ヲ授ル

丁各同カラス因テ彼此ノ職掌相當スル者ハ
應接及ヒ文通トモ拘ノ對待リ禮ヲ用ニ職卑
キ者ト上官ト相見ルニハ客禮ヲ行ヒ公務ヲ辨
スルニ付テハ職掌相當ノ官ヘ照會^{カケアヒ}ノ其上官ヘ
轉申シ直達スルヲ得ズ又雙方禮式ハ出會
ニ各官位ノ名帖ヲ用ユ凡兩國ヨリ差出タル
官負初テ任所ニ到着セバ印證アル書付ヲ出
シ見セ^シ假冒^{ハシキ}ナキ様ノ防キヲナスベシ

第六條

此後兩國往復スル公文大清ハ漢文ヲ用ヒ
大日本ハ日本文ヲ用ヒ漢譯文ヲ副フベシ或
ハ只漢文ノミヲ用ヒ其便ニ從フ

第七條

兩國好ミヲ通セシ上ハ海岸ノ各港ニ於テ彼此
共ニ場所ヲ指定メ商民ノ往來貿易ヲ許ス
ベシ猶別ニ通商章程ヲ立テ兩國ノ商民ニ永

遠遵守セシムベシ

第八條

兩國ノ開港場ニ彼此何レモ理事官ヲ差置
キ自國商民ノ取締ヲナスベシ凡家賤産業公
事訴訟ニ干係セン事件ハ都テ其裁判ニ歸シ
何レモ自國ノ律例ヲ按シテ糾辨スベシ兩國商
民相互ノ訴訟ニ何レモ願書體ヲ用ユ理事
官ハ先ツ理解ヲ加ハ成丈ケ訴訟ニ及バサル様

ニスベシ其儀能ハサル時ハ地方官ニ掛合セ雙
方出會シ公平ニ裁断スベシ尤盜賊欠落等ノ
事件ハ兩國ノ地方官ヨリ召捕リ吟味取上ケ方
致ス而已テ官ヨリ償フコトナササルベシ

第九條

兩國ノ開港場ニ若シ未タ理事官ヲ置ザル
時ハ其人民貿易何レモ地方官ヨリ取締リ世
詰スベシ若シ罪科ヲ犯サバ本人ヲ捕テ吟味ヲ

大正官
遂ケ其事情ヲ最寄開港場ノ理事官ヘ掛合
ヒ律ヲ照シテ裁断スベシ

第十條

兩國ノ官吏商人ハ諸開港場ニ於テ何レモ其
地ノ民人ヲ雇ヒ雜役手代等ニ用テテ勝劣ニ
為ベシ尤其雇主ヨリ時々取締ヲ為シ事ニ寄
セ人ヲ欺クイナカラシメ別シテ其私言ヲ偏聽
夕事ヲ生セシムベカラズ若シ犯罪ノ者有ラハ

其地方官ヨリ召捕リ糾辨スルニ任セ雇主ヨ
リ庇フイテ得ス

第十一條

兩國ノ商民諸開港場ニテ彼此往來スルニ
付テハ互ニ友愛スベシ刀劍類ヲ携帯スルコトヲ
得ス違フ者ハ罰ヲ行ヒ刀劍ハ官ニ取上クベシ
又何レモ其本分ヲ守リ永に暫居ノ差別無
ク必ス自國理事官ノ支配ニ從フヘシ衣冠ヲ

新加無不可

替へ改メ其地ノ人別ニ入り官途ニ就キ紛ハシ
キ儀有ルヲ許サス

第十二條

此國ノ人民此國ノ法度ヲ犯セシ_テ有_テ彼國
ノ役所商船會社等ノ内ニ隠レ忍ヒ或ハ彼國
各處ニ遁ケ潜ミ居ル者ヲ此國ノ官ヨリ查明
ノ掛合ヒ越サハ彼國ノ官ニテ早速召捕ラヘ
見遁ス_ト得ズ囚人ヲ引送ル時ハ途中衣食

ヲ與へ凌虐スベカラズ

第十三條

兩國ノ人民若シ開港場ニ於テ兇徒ヲ語合
ヒ盜賊惡事ヲナシ或ハ内地ニ潜ミ入り火
付ケ人ヲ殺シ劫奪ヲナス者有ラハ各港ニテハ
地方官ヨリ嚴ク捕へ直ニ其次弟ヲ理事官
ヘ知ラスベシ若シ兇器ヲ用テ手向ヒセハ何ニ
於テモ格殺メ_ルナカ_ルベシ候シ之ヲ殺シ_テ事

情ハ理事官 山會ノ一同ニ查驗スルモ若
シ其事内地ニ獲リテ理事官自ラ赴キ查
驗スル一屆キカスル時ハ其地方官ヨリ實在
ノ情由ヲ理事官ニ照會メ查照セシムヘシ
縛ノ取りタル罪人ハ各港ニテハ地方官ト理事
官ト會合ノ吟味シ内地ニテハ地方官一手
ニテ吟味シ其事情ヲ理事官ニ照會メ查
照セシムベシ若シ此國ノ人民彼國ニ在テ一
徒黨ヲ企テ十人以上ノ數ニ及ビ並ニ彼國人
民ヲ誘結通謀シ害ヲ地方ニ作スノ事有
ラバ彼國ノ官ヨリ早速查拏シ各港ニテハ理
事官ニ掛合ニ會審シ内地ニテハ地方官ニ
リ理事官ニ照會メ查照セシメ何レモ事ヲ
犯セシ地方ニ於テ法ヲ正スベシ

第十四條

兩國ノ兵船開港場ニ往來スルハ自國

新加不審

民ヲ保護スル為メナラハ都テ未開港場及
内地ノ河湖支港へ乘入ルコトヲ許サズ違フ者ハ
引留テ罰ヲ行フベシ尤風ニ遇ヒ難ヲ避ルタメニ
乘入リタル者ハ此例ニ在ラズ

第十五條

此後兩國若シ別國ト兵ヲ用テ争有ルニ付
防禦イタスベキ各港ニ於テ布告ヲナサバ暫ク
貿易並ニ船隻ノ出入ヲ差止メ誤テ傷損

新加無不加

受ケサラレムヘシ又平時ニ於テ大日本ハ大清
ノ開港場及ヒ最寄ノ海上大清人ハ日本ノ
開港場及ヒ最寄ノ海上ニテ何レモ不和ノ
國ト互ニ争鬪搶劫スルコトヲ許サズ

第十六條

兩國ノ理事官ハ何レモ貿易ヲ為スコトヲ得
ス亦條約ナキ國ノ理事官ヲ兼勤スルコトヲ許
サズ若シ事務ノ訂ヒ方衆人ノニ叶ハズ

大正官

大正官

新加 辨裁不可

據有^ラ此^レ何^レモ書面ヲ以テ兼權大臣ニ或
合ヒ查明メ引取ラシムベシ一八事ヲ破ルニ因テ
兩國ノ友誼ヲ損傷スルニ至ラシメズ

第十七條

兩國ノ船印ハ各定式アリ萬一彼國ノ船此
國ノ船印ヲ^假冒^ノ私ニ不法ノ事ヲ為サハ
其船並ニ荷物トモ取上クベシ若其船印
官負ヨリ渡シタル者ナラバ其筋ニ申ス官

新加 無害

ヲ罷メシムベシ又兩國ノ書籍ハ彼此誦習
ハシト願ハ^ハ互ニ買賣スルヲ許スベシ

第十八條

兩國議定セシ條規ハ何レモ預メ防範
為^ニ偶嫌隙ヲ生スルヲ免レシメ以テ講信
修好ノ道ヲ盡ス所ナリ是ニ因テ兩國
欽差全權大臣證據ヲ為^シ先^ニ花押調印
ナシ置キ兩國

御筆ノ批准相濟ニテニ牙替ハセニ後ニ即チ版
刺ソ各處ニ通行ニ彼此ノ官民ニ普ク
遵守セシソ永ク以テ好ラ為スベシ

明治四年辛未七月廿九日 花押

同治十年辛未七月廿九日 花押

